



版画Fan

Vol.60

2020年 春夏号

インプリントまちだ展2020

すむひと⇄くるひと

—「アーティスト」がみた町田—

“Imprint” MACHIDA 2020 From Stranger to Neighbor:

Machida seen from the “artists”

2020年4月11日(土)～6月28日(日)

観覧料:一般=900(700)円、高校・大学生=450(350)円

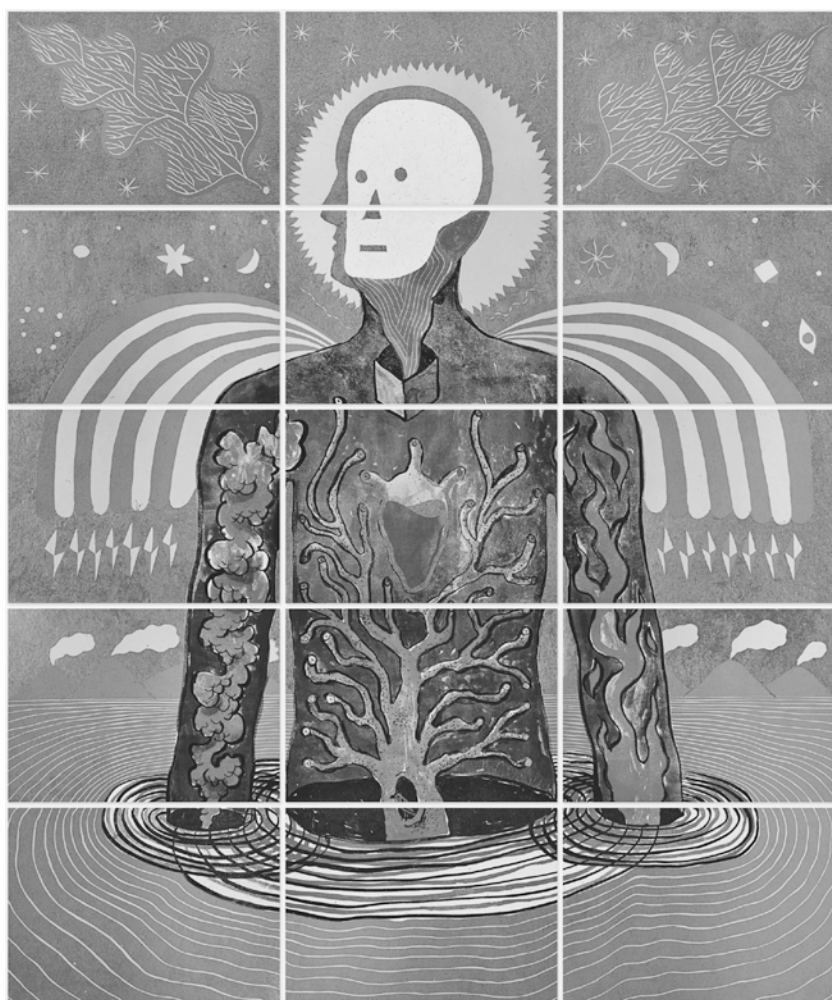
中学生以下は無料

※()内は20名以上の団体料金

※4月11日(展覧会初日)と4月19日(開館記念日)は入場無料

※4月22日(水)、5月27日(水)、6月24日(水)は

シルバーデーのため、65歳以上の方は入場無料

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、会期に変更があります。詳細は美術館HP(<http://hanga-museum.jp/>)をご覧ください。

インプリントまちだ展は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会にむけて2017年から当館で開催してきたシリーズ展です。その集大成となる本展では、「すむひと」＝まちだ在住のアーティストと市民の自主出版物、「くるひと」＝当館が招いたアーティストたちの作品をあわせて展示し、版画を中心とする印刷物から町田の姿を示すことを試みます。

さらに、シリーズのフィナーレにふさわしいゲストとして、町田市がホストタウンを務めるインドネシアから新進気鋭のアーティスト、アグン・プラボウォを招き、町田の市街地に取材した新作を発表します。

(学芸員 町村悠香)

アグン・プラボウォ《チラックス #1》
2016年 作家蔵

【アグン・プラボウォ (Agung Prabowo “Agugn”) プロフィール】

1985年生まれ。インドネシア・バンドン出身、バリ島ウブド在住。バンドン工科大学芸術デザイン学部芸術学科版画コースに学ぶ。リノカット(版材としてリノリウムを使用した版画)による独創的な作品が国際的に高く評価されている。Facebookジャカルタオフィスの壁画も手がける。

【インプリントまちだ展とは】

版画を制作の軸とする若手作家を毎年招へいし、町田に取材した新作を発表してきた展覧会シリーズ。アーティスト目線で町田の多様な姿を後世に伝え、展覧会に関わった多くの人々の心に残ることを目指します。

※身体障がい者手帳、愛の手帳(療育手帳)または精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方と付き添いの方1名は半額

※友の会会員は会員証を提示すると無料 ※休館日: 月曜日、5月7日(木) ただし5月4日(月・祝)は開館

※問い合わせ: 電話042-726-2771

浮世絵風景画

— 広重・清親・巴水 三世代の眼

UKIYO-E LANDSCAPES : Hiroshige, Kiyochika and Hasui
Eyes of Three Generations

2020年7月11日(土)～9月13日(日)

観覧料:一般=900(700)円、高校・大学生=450(350)円、

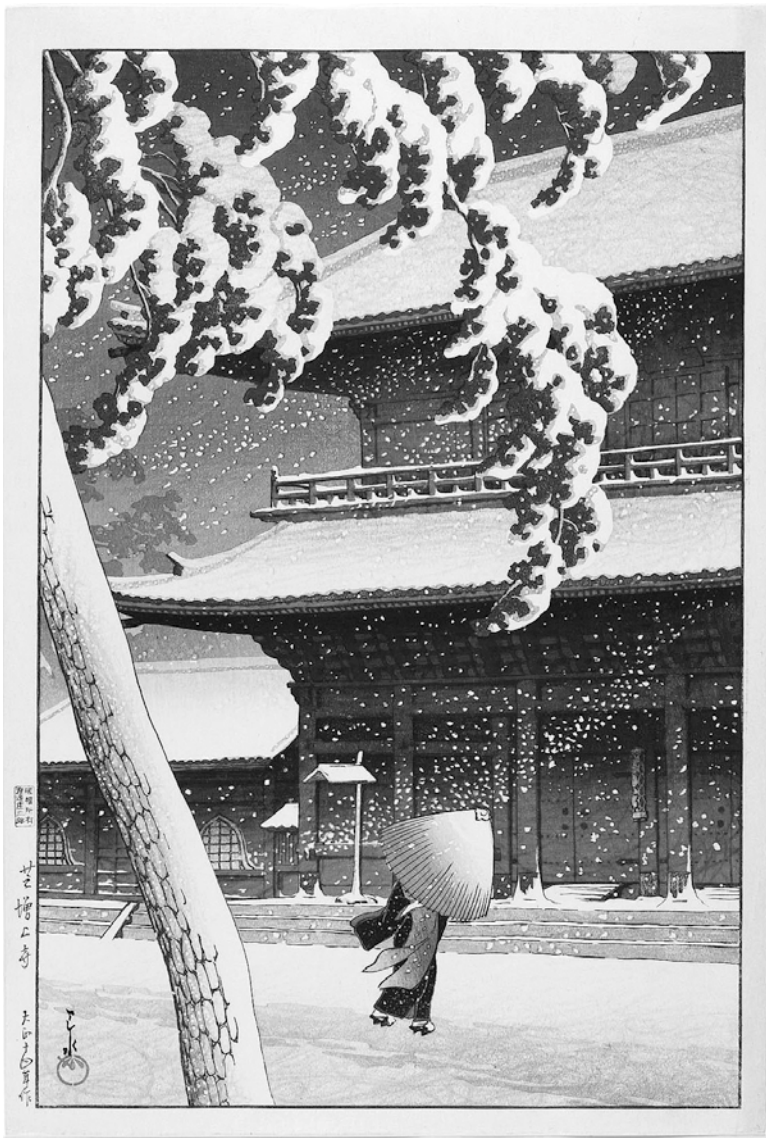
中学生以下は無料

※()内は20名以上の団体料金

※7月11日(展覧会初日)は入場無料

※7月22日(水)、8月26日(水)は

シルバーデーのため65歳以上の方は無料

川瀬巴水「東京二十景 芝増上寺」大正14年(1925)
町田市立国際版画美術館蔵

町田市立国際版画美術館は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、国内外に日本美術の魅力を紹介することを目的に「はんび浮世絵プログラム」を創設しました。2017年には「浮世絵にみる子どもたちの文明開化」展、2018年には「浮世絵モダン 深水の美人! 巴水の風景! そして…」展、2019年には「美人画の時代—春信から歌麿、そして清方へ」展を開催しています。

このプログラムの一環として、本年の7～9月に「浮世絵風景画—広重・清親・巴水 三世代の眼」展を開催します。江戸期の歌川広重(1797-1858)、明治期の小林清親(1847-1915)、そして大正から昭和期の川瀬巴水(1883-1957)という、それぞれの時代に風景画の制作を得意とした三世代の絵師・画家に注目する特別展です。三者が変わりゆく日本の風景をどのように捉えてきたのか、その表現の違いを対比しながら、時代を超えて響きあう風景観や叙情性に着目します。江戸末期から昭和初期までの風景表現の展開を、前期・後期合わせて約370作品の大ボリュームでご堪能ください。

また会期中には記念講演会や日本文化を体験できるイベントを実施する予定です。こちらもどうぞお楽しみに!

(学芸員 村瀬可奈)

— 展覧会をもっと楽しく! —

インドネシア・フェア&浮世絵フェア

インプリントまちだ展と浮世絵風景画展の会期中に、「町田市文化プログラム」として各展覧会にあわせたフェアを開催します。コンサートや演芸会、物品・飲食販売を予定。詳細は当館HPやSNS等で告知していきます。ご期待ください。

(学芸員 藤村拓也)

インドネシア・フェア=5月16日(土)、5月17日(日)
浮世絵フェア=8月1日(土)、8月2日(日)

町田市文化プログラム

生涯の宝になった“水遊び” 水彩画講座に参加して

「友の会アートスクール やさしい水彩画講座」
2019/9/20(金)～10/18(金)全5回実施

昨年に続き参加させて頂きました。野澤奈穂子先生はとてもやさしく穏やかに教えてくれます。今回も“水遊び”という表現スタイルで、薄く水に溶いた透明水彩絵具で濡らすように塗ることで、空気の薄さや透明感など、様々な技法を取り入れながら“空間の中のできごと”を表現する方法を教えてくださいました。

『ドロッピング』という、日本画の垂らし込みや、乾いた面の上に色を乗せることで叶う重色効果。はっきりした境界が得られることで、透明色で深みのある重色は、絵具や水で濡れ、湿った面に色を乗せることによる混色効果、濡れた色の面に“岩塩の粒”を撒くだけで、複雑な樹状模様の色むらが浮き上がってきた時には自分でも意図せぬ小さな悲鳴に似た声勝手に出て来るほどでした。千載一遇の水の動きと絵具の融合を存分に楽しませて頂けたことは自分の日常生活にも彩を添えて頂き、水彩画を描くという楽しみは私にとって生涯の宝ものとなりました。次回もご一緒に“小さな悲鳴”をあげたいと願っております。

友の会会員 曾澤 香



「木版画講座」を受講して

「友の会アートスクール 木版画講座」
2019/7/31(水)～9/11(水)全6回実施

今回初めて木版画講座を受講した。今まで木版画自体は白黒メインで、自己流でやってきたが、今回多色で本格的に取り組んでみてつくづく木版の奥の深さを思い知らされた。多くの方は何年も経験を積んで来られて、各々自分のペースや作風をすでに確立されているのに対し、作業手順もあやふやでオタオタするばかりであった。彫りは好きなので家で早めに進められたが、予想通り刷りが難しく、ずれたり色がつかなかったり、色の変化が出なかったりと苦しんだ。それでも徐々に慣れて最終日によりやくそれなりに刷ることができたが、まだまだ不満だ。

それにしても他の方の凹版の木版刷り、さまざまな技法、独自の技法など目にうろこという感じで、とても勉強になった。ぜひ来年もさらにレベルアップして臨んでみたいと、つくづく思った。ありがとうございました。

友の会会員 丸山三枝子



第22回美術館めぐり

2019/11/14実施

訪問先：①切手の博物館 ②学習院大学史料館 ③自由学園明日館

秋の美術館巡りは目白駅10時15分集合、空は徐々に晴れ日和が期待出来そう。全員集合でまず「切手の博物館」へ徒歩5分。博物館では樫原かずおさんデザインの赤白横縞、大きな瞳を描いた郵便ポストがお出迎え。早速皆でポストを囲み記念撮影です。切手博物館は企画展「光の世界」開催中。世界中から集めた様々な光や輝きが主題の切手、ハレー彗星、眩しい宝石、夜景、ホログラム等の華麗な切手数百点の展示です。切手の画面は小さいけれど、各国独自の文化をアピールしていました。続いて徒歩十分の学習院大学史料館、武具の展示へ。学習院で武具？と戸惑いましたが、維新後の華族子弟の軍人・官吏への育成を担った歴史、乃木將軍が学習院長に、と伺い納得。火縄銃、絵巻物、薄紫や紺の色遣いの具足などを興味深く鑑賞しました。

時刻はお昼前、皆で学生食堂へ。食後は学苑のベンチで寛ぎました。午後はぶらぶら散歩で池袋に近い自由学園明日館（みょうにちかん）へ。明日館は大正10年の自由学園開校時の校舎。創立者羽仁夫妻の思いに共感した建築の巨匠フランク・ロイド・ライト氏が設計した建物です。平成9年重要文化財となり、復元工事を実施。修復された建物は両翼をひろげた2階建て。1階に女生徒達の教室、暖炉がある集会室、2階に食堂。部屋の中にはライト氏と弟子 遠藤新氏のアイデアが、窓や照明、椅子等の細部設計にも活かされ、凡そ百年を経ても生き活きとしています。文化財ながら結婚式・音楽会や教室に活用中とのことです。参観を終え南向きの窓からの陽光に満ちた集会室でお茶とスイーツを頂きました。カルチャー満載の秋の1日、楽しい企画を有難うございました。

友の会会員 岡崎仁志

第21回ゆうゆう版画美術館まつり報告

「第21回ゆうゆう版画美術館まつり」は、「Enjoy! Art!」をテーマに掲げ実施。「時代祭り」「文学館まつり」日程と重なったこともあり、天候にも恵まれ、事故もなく盛大に行うことが出来ました。

ポスターデザイン入賞者表彰式は、今回も審査委員長・浅井竜介先生のご講評を伺い、受賞者の写真撮影も和やかに行えました。恒例の「チャリティアートバザール2019」は、会場の都合で、13店舗の出店にとどまりましたが、約3,590名の来場者数。そして、チャリティ金50,000円の拠出金全額を町田市社会福祉協議会に寄付致しました。

市域学生のアートプログラムは学園祭と重なったことから1校のみ1日の参加。木版画摺り体験、キッズアートスペースなどには多くの方々の姿を見ることが出来ました。

館内講堂では版画美術館独自制作のビデオ「歌麿再現—現代を生きる錦絵の技」放映、ゆうゆうプロムナードコンサートは企画展「美人画の時代」に合わせて「いにしへの響き今の風」を横笛・箏・ギターがオリジナル曲目もあわせて演奏しました。「第21回ゆうゆう版画美術館まつり」を盛会に行うことが出来ましたことをご報告いたします。

『第22回ゆうゆう版画美術館まつり』は、2020年10/24(土) 25(日)開催。今年も広報用ポスターデザインを募集します。

第21回会員展報告

2020/3/10～3/15開催

会期中には冷たく寒い日、更に新型コロナウイルスなど鑑賞にはマイナス条件が重なりましたが、558名もの方々にお越しいただき感謝申し上げます。今回は、出展者43名、出品数84点（アートスクール講師作品を含む）の出品でした。皆様のアンケートには、ジャンルの多様さ、レベルの充実など高評価を数多くいただきました。次回の展示会に向けて励ましのコメントを糧に、更に良い作品作りに挑戦してまいります。

会員展実行委員会一同

・第22回会員展の予告

2021年3月23日～28日開催予定

友の会会員募集中!

《会の目的》版画美術館の事業活動支援・会員の教養、親睦を深める・美術、文化および地域文化の向上

《主な特典》美術館企画展が会員証提示で、無料で観覧、当館発行書籍の割引があります

《年会費》一般会員3000円(入会年5000円)・ファミリー会員2000円(入会年3000円)・学生会員2000円(入会年も同じ)・賛助会員1口10000円(法人・個人不問・口数任意・各種特典あり)※申し込みは友の会事務所へ

TEL・FAX042-726-3051

森のコンサート『トランペットがやってくる』

2020/2/8開催

出演：Jazz Duo トランペット 田中 充

/ピアノ 千葉史絵

演奏曲：ニューシネマパラダイス

チュニジアの夜 ほか

旧暦小正月のひと時、エントランスホールで迫力ある演奏が363名の聴衆を包み込む、心地よいひとときが繰り広げられました。

予定 第23回友の会定期総会

2020年4/25(土) 13:30～ 会場:美術館講堂

・2019年度事業報告及び2020年度事業計画(案)

・「10年継続会員」紹介と記念品贈呈

・大久保館長 特別レクチャー(講演)を予定

“多くの会員の出席をお願い致します”

各種講座・サークル予定

■美術館めぐり(詳細は後日お知らせします)

今秋に予定

「柳原良平アートミュージアム」

「馬の博物館」「三溪園記念館」

■友の会会員のサークル活動

▽木版画倶楽部

毎月第4木曜 13～16時 友の会事務所にて

毎月原則第2土曜 13時～17時 美術館アトリエ

・4月よりカレンダー作り開始し、10月末までに完成予定

・10月より年賀状作成 ・その他自由制作

いずれも自由に見学できます。お出かけください。

事務局だより

*まつり運営委員会・催事リーダー会 9/3・10/17・11/26

*10/26・27 第21回ゆうゆう版画美術館まつり

*合同部会 8/27・12/3・3/24・4/14・4/21

*第21回会員展 2020.3/10～3/15(呈茶・懇親会は中止)

*会員展実行委員会 1/21・2/14・2/18・2/28・3/3・4/10

*美術館めぐり ①11/14(実施)・②2/26(中止)

*森のコンサート 2/8(実施)

*アートスクール 木版画教室・絵画教室・銅版画教室開講

*会計監査・理事会(4月予定)

*第23回定期総会 4/25(予定)

編集後記：ウイルスによって世の中が一変。古来、見えないものと上手く付き合ってきた日本。敵対せず、自然の流れのもとに治まって欲しいですね。(mm)